

電子版

西南学院大学  
博物館ニュース

vol.2 2020.9

Ⅰ 特集

再開館にむけて  
博物館の取り組み

新規展示資料紹介Ⅰ

ウィーン創世記（複製）

— 2

新規展示資料紹介Ⅱ

出島図

— 4

常設展示室スタッフ見どころ解説

ヤド

リンデイスファーン福音書

肥前崎陽玉浦風景之図

— 6

デジタルアーカイブ事業紹介

おうちで西南学院大学博物館

— 9



画像1 「ウィーン創世記」複製 fol.2v,fol3r

原資料：6世紀 / 羊皮紙 / オーストリア国立図書館蔵

複製：2019年 / Quaternio Verlag Luzern / 西南学院大学博物館蔵

本資料は、6世紀初頭、東ローマ帝国領であったアンティオキアで制作された挿絵付きの装飾写本の複製です。現在はウィーンに所在するオーストリア国立図書館が所持しているため「ウィーン創世記」と呼ばれています。古代後期と初期ビザンチン美術、両方の性質を併せ持った傑作とされる色鮮やかな細密画（miniature）がページの半分を占めています。

## ■ 細密画

6世紀に制作された際には96葉で構成されており、そこには192枚の細密画が描かれていたと推測されています。現在は24葉に48枚の細密画が残存し、旧約聖書『創世記』の中の諸場面が色鮮やかに描かれています。画像1下部の左側はアダムとエヴァの楽園追放の場面、右側は大洪水の場面です。

楽園追放の場面をよく見ると、1つの絵に複数のアダムとエヴァが存在しています。これは、「異時同図法」といって、1つの図に複数の場面を描く手法です。

衣服・アクセサリや家具などには金箔が使用された箇所もあり（画像2）、非常に豪華な装飾写本であったことが推測されます。



画像2 fol.8v

オリジナル版で金が使われた装飾箇所は複製版でも金を使用し再現されました。

## ウィーン創世記（複製）

### ■ テクスト

紙面の上部には、アンシャル体という書体で細密画の解説が記されています。その解説文は細密画の内容に合わせて、『七十人訳聖書（Septuaginta）』というギリシア語訳の聖書を基に要約されたものです。省略された箇所もあることから、この資料は実際の典礼で使用するためのものではなかったと考えられます。

文字のインクには銀が使用されましたが、何世紀もの時を経て腐食し、黒く変色したり抜け落ちたりしています。この腐食は1664年に宮廷図書館（現在の国立図書館）に収蔵された段階で発見され、深刻な問題とされてきました。

### ■ 紫羊皮紙

本資料に使用された羊皮紙は、現在は薄茶色に退色してしまっていますが、元々は鮮やかな紫色\*に染められていました。当時、紫は皇帝の色とされ庶民には使用が禁じられていたことから、統治者であったユスティニアヌス1世ないしは彼の家族のために作られたものであると考えられます。

\*この紫色は、オルセイン（orcein）という地衣類を染料としていたことが近年の研究で明らかになりました。

### ■ 資料保存のために

2016年から2019年に渡り、オーストリア国立図書館研究所と8つのパートナーによって国際的な研究プロジェクトが行われました。プロジェクトの目的は、6世紀に制作された「ウィーン創世記」を保存する上での問題を明確にして、持続可能な保存方法を探ることでした。細密画に使用された顔料の種類、羊皮紙とその老化の程度などが専門家たちの手によって初めて詳細に調査されました。

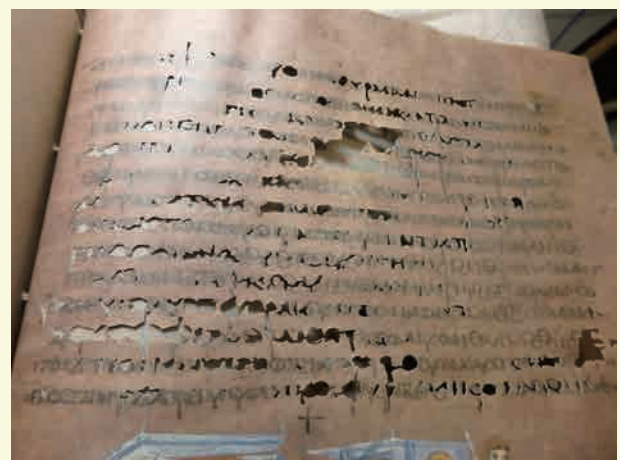
調査の結果、細密画の顔料と様式の違いから、この作品を描くにあたって7人の画家がいたことがわかりました。また、6世紀当時の羊皮紙の製造過程や紫色の染色方法も再現されています。これらの情報は文字での記録が残っていない当時の知識と技術を推測するうえで重要な手がかりとなっています。

これまで、ガラス板やアクリル板などに挟まれて保管されてきた資料ですが、現在は一葉ずつ和紙の封筒に入れ、酸を含まない凹型の台座で保管されています。「ウィーン創世記」を可能な限り本物に近い状態で長期間保存することが目的です。

### ■ ファクシミリ版

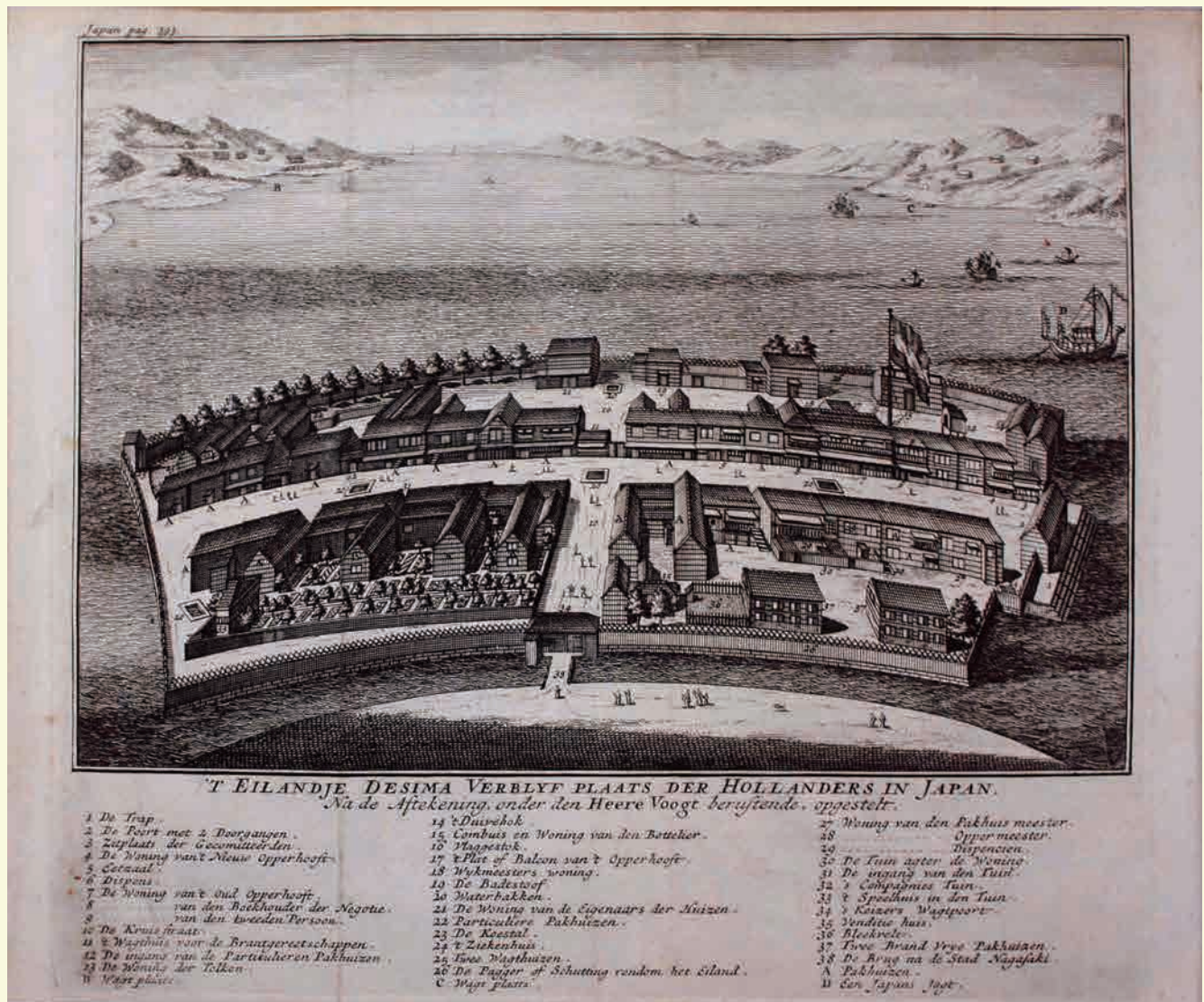
当館の所蔵する資料は2019年に、スイスのルツェルンにあるQuaternio出版社で制作されたファクシミリです。原本を忠実に再現するためにテキスト中の抜け落ちた文字は、レーザーパンチによって打ち抜かれました（画像3）。さらにページの両端もあえて不揃いに加工し、オリジナル版の羊皮紙の経年劣化の様子を表しています。

さまざまな魅力を持つ本資料ですが、「何よりもオリジナルに忠実であること」が重視されたファクシミリ版の職人技に注目してみても面白いですね。



画像3 fol.18r





18世紀 / 銅板 / 西南学院大学博物館

本資料は、1735（享保20）年頃の様子を描いたと考えられている「出島図」です。本来は本に収録された図版でしたが、現在は散逸したため、出島図の部分を額装で展示しています。

## 『万国史の現代史』

1736年、オランダのアムステルダムで出版業を営んでいたティリオン(Isaak Tirion 1705-1765)により、イギリスの歴史家サーモン(Thomas Salmon 1679-1767)による数十巻もの大部の叢書のオランダ語版が刊行されました。『万国史の現代史(Modern History: or Present State of All Nations)』と名付けられたこの叢書は、世界各国と地域の文化、歴史、自然、地理などに関する当時最新の知識を網羅的に収録しようとしたものです。

オランダは当時のヨーロッパにおける唯一の日本との交易国であったため、ティリオンの作成したオランダ語版は、英語版にはない日本地図や多数の図版などが収録され、日本に関する情報が大幅に増補・改変されています。そのためタイトルこそ「オランダ語版」となっているものの、実質的にはティリオン独自の叢書とも呼べるものになっており、のちに刊行された『万国史の現代史』のドイツ語版・イタリア語版も、英語版ではなくこのオランダ語版を底本としています。



## 出島図

### ■「出島図」について

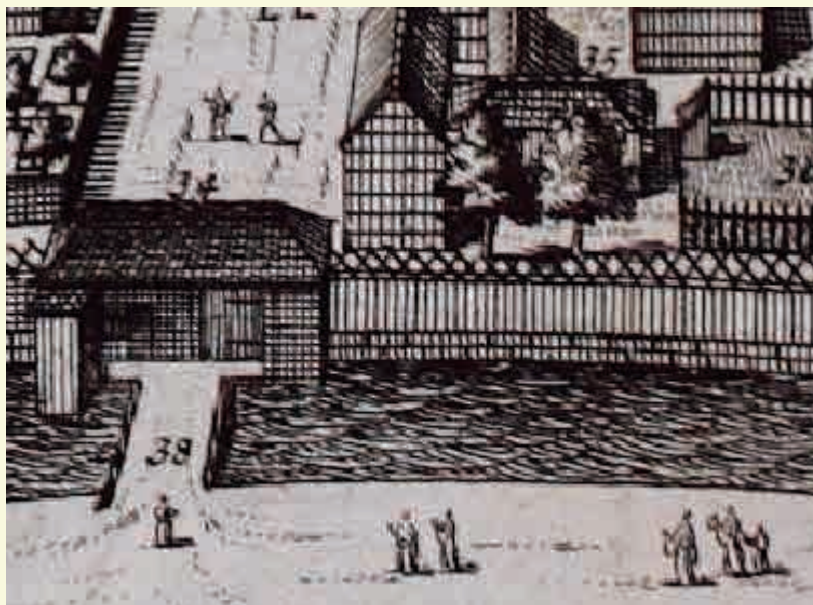
本資料は、ティリオンのオランダ語版に収録されたものです。この図はオランダ商館のスタッフであり、1699年から少なくとも20年以上出島に滞在していたと思われるフォーフト（Gerrits Voogt）から提供されました。図中には38の数字に4つのアルファベットと、合計で42もの記号が振られており、下部にはその解説がなされています。

下部の解説によると、もっとも多く振られているAという記号は「Pakhuizen（＝倉庫）」を示しています。オランダ東インド会社の「借り上げ社宅」である出島内で生活するオランダ人は15人程度だったため、建物の大部分は住居ではなく、交易品を管理・保管するための倉庫で占められていることが分かります。

また、日本では牛肉を調達することができなかったため、オランダ人は食用の牛をバタビア（現在のジャカルタ）から船に乗せて運び、出島で飼育していました。牛小屋は出島図左側の一番奥にある建物です。出島では牛の他にも豚、ヤギ、アヒルなどが飼育されていたようです。この他にも、出島唯一の出入り口であった表門の部分を拡大してみると、出島内のオランダ人と、門の外の日本人とでは服装もしっかりと区別されて描かれていることが分かります。とても緻密に描かれており、見るたびに発見がある資料ですので、ぜひ実物を見ていろいろな想像をめぐらせてみてくださいね。



倉庫が立ち並ぶ様子



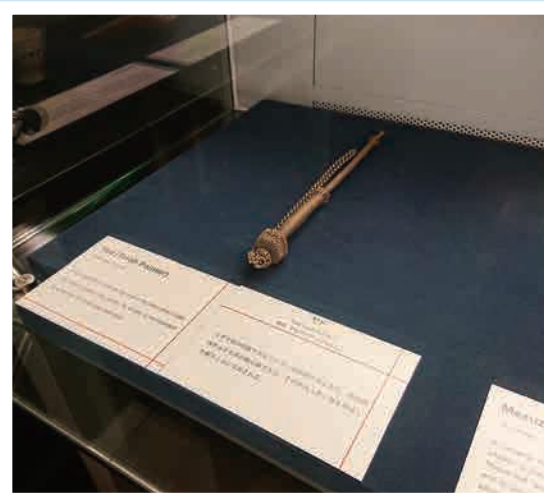
出島内のオランダ人と、出島橋の前を通る日本人。  
オランダ人たちがズボンをはいているのに対し、日本人はゆったりとした着物に身を包んでいる様子が描かれています。

8月からの博物館開館に際して、常設展示室に博物館スタッフによる見どころ解説パネルと英訳キャプションが、新しく加わりました。どの展示資料に見どころ解説パネルが加わったのかは博物館でのお楽しみになりますが、今回の特集ではその一部をお届けします。



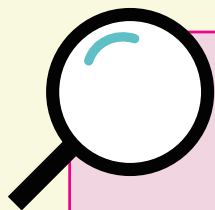
## ヤド

ヤドは、ヘブライ語で手(指)を意味しており、ユダヤ教で巻物を朗読するときに朗読箇所を指示するための指示棒です。なぜ指示棒が必要だったのでしょうか？ それは、巻物に直接手を触れることが手を汚す罪とされていたからでした。ヤドの特徴は、人差し指を伸ばした握り拳の形をしていることです。色々な素材で製作され、装飾も多種多様で、芸術的要素が詰め込まれています。また、ユダヤ教の聖典であるトーラーの捲棒の上端から吊り下げられることから、トーラー装飾のひとつでもあります。

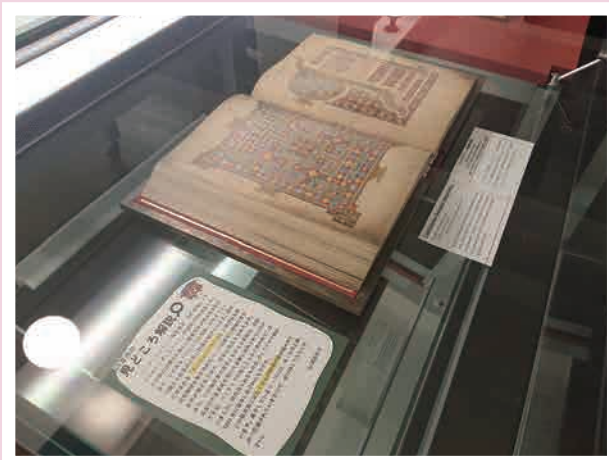


### 常設展示室マップ





## リンディスファーン福音書



リンディスファーン福音書は、700年頃にイギリスのリンディスファーン修道院で作られました。この時代は数々の美しい聖書写本が生み出されており、この本も「ケルト三大写本」のひとつとして数えられるほど高い評価を受けています。随所に挟まれる「カーペット・ページ」と呼ばれる幾何学模様を敷き詰めたページは非常に精細な書き込みが施されており、非常に見応えがあります。この福音書にはたくさんの動物の絵が描かれています。展示しているページには、多くの鳥と猫が一匹描かれていますので、ぜひ探してみてください。

### 常設展示室マップ



### 常設展示室マップ



## 肥前崎陽玉浦風景之図



江戸時代の代表的な遊郭の1つであった丸山の様子が描かれています。丸山の遊女は、日本で唯一外国人を客にしていました。なんと、日本人だけを相手にできるのは1割以下の位の高い遊女のみで、残りの遊女は中国人・オランダ人の相手をする「唐人行」「阿蘭陀行」でした。特にオランダ人は言葉も通じず、琴や三味線などにもつれない態度で……遊女にとって難しいお客さんでした。この絵図の中にも、中国人やオランダ人がたくさん描かれていますよ。中には、変わったポーズをとる人たちや酔いつぶれている人たちも！



新型コロナウイルス感染症の流行を受け、日本では4月16日に緊急事態宣言が発令され、全国の博物館が休館を実施しました。休館により展示教育ができなくなった博物館は、家庭でも博物館の学びを得られるようにデジタルアーカイブなどを活用した学習コンテンツを企画、提供する動きが活発となりました。ここでは再開館をはたしたのちも継続している当館での取り組みをいくつかご紹介します。

Twitter

聖書植物園ツアー

@seinan\_museum

▶聖書植物園の季節の様子を、ジョージ君と解説員でお届けするツイッターシリーズ。聖書植物の由来とする聖句や、植物情報、豆知識などを紹介しています。



博物館前の花壇で花が咲いていたよ！  
背も高いし、なんだか独特の香りがするね！

この聖書植物はユダヤ教のとある道具とも深い関わりがあるんだよ。

解説

【クラリセージ (シソ科)】

学名：Salvia sclarea 聖書名：燭台

《聖句》

純金で燭台を作りなさい。燭台は打ち出し作りとし、台座と支柱、萼と節と花弁は一体でなければならない。六本の支柱が左右に出るように作り、一方に三本、他方に三本付ける。(出エジプト 25：31-32)

別名オニサルビア。地中海北部から中東、北アフリカに生育する二年草。1～1.5mまで伸びて、葉も30cm以上の大きさになるんだ。香水の原料にも使われるよ。

解説



セージの仲間がユダヤ教のメノラー（燭台）の原型とされているんだね。  
花がメノラーみたいに軸枝と左右3本の分枝をもってるね！

HP

聖書植物ビンゴ

<http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

▶博物館のホームページで公開している「おうちでワークショップ」のひとつ。身近にある聖書植物を探し出してビンゴをめざします。

植物そのままの姿だけでなく、食べ物や日用品など、どんな場所で、どのような姿で聖書植物を発見できるかをビンゴをめざして取り組みます。

表面（上）でビンゴの完成を目指し、裏面（下）で聖書植物をみつけたときの様子を記録します。

ダウンロード（西南学院大学博物館HP「ワークショップ」）  
<http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/child/>

## ■ 編集後記

約4ヶ月間の臨時休館も明け、8月より開館が始まりました。臨時休館中には、常設展示室の収蔵品に英訳キャプションと見どころ解説を新たに加えることになりました。また、収蔵品の展示替えも行い、新たな常設展示室へと生まれ変わっています。新型コロナウイルス感染対策をしっかり行いながら、新しい「withコロナ」の博物館を作っていきたいと思います！

学芸調査員 内野舞衣

開館に向けて、臨時休館中には今回ご紹介した様々な取り組みを行いました。感染症はまだしばらく日常生活に影響を与えそうですが、幸いなことに、SNSなどの遠隔配信のツールが充実している時代です。このような電子版ニュースの配信をはじめとした、来館が難しい方へ向けた活動もより一層充実させてまいります。

学芸調査員 勝野みずほ

## ■ 執筆者

山尾 彩香 (西南学院大学博物館学芸研究員)  
迫田 ひなの (西南学院大学博物館学芸調査員)  
内野 舞衣 (同)  
勝野 みずほ (同)

[電子版] 西南学院大学博物館ニュース vol.2  
特集「再開館にむけての博物館の取り組み」

発行日 2020年9月25日  
編集・発行 西南学院大学博物館  
福岡県福岡市早良区西新3丁目13番1号  
TEL.092-823-4785 (博物館事務室)  
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>